

平成25年度 学校評価に係る学校関係者評価書

学校名 北海道おといねっぶ美術工芸高等学校

1 本年度の重点目標

2 本年度の経営方針

学校関係者評価委員会
学校評議員

- (1) 基本的な生活習慣の確立と学習習慣を定着させる。
- (2) 生徒一人ひとりの個性を生かした造形教育を推進する。
- (3) 学校生活・寄宿舎生活をととして、キャリア教育を推進し社会性を育成する。
- (4) 魅力ある教育活動の発展充実を目指し研修や実践に努める。

- (1) 学校教育目標・重点目標を達成するための具体的方策を推進する。
- (2) 生徒一人ひとりの創造力を育てる造形教育の質の向上を図る。
- (3) 学校や寄宿舎での自主活動の推進し、豊かな社会性を育てる。
- (4) 教職員の計画的な研修活動の推進させる。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校経営	(1) 創造力を育成し人間力を高める教育を実践し、夢を語り活力を育む学校づくりを推進する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の成長支援を主体として、授業の内容や取り組みの検証を行い、活力を増大させる。 東海大学国際文化学部との新しい連携を踏まえ、生徒の学びに更に資する高大連携を推進する。 国際理解教育と教育課程の連携を深めて、より良い形での取り組みを構築する。 地域全体の教育力が向上する地域連携教育を推進する。 	A	A
	(2) 高大連携教育、国際理解教育、地域連携教育等により教育の質的向上を図る。	B	B			
評価者の意見等 ・ 高大連携・国際理解・地域連携をひとつくりに評価することに無理はないか。						
学習指導	(1) 生徒一人ひとりの実態に即した学習指導により、学力を向上させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した授業改善を目ざして、計画的に教材研究や指導力向上に努める。 生徒の自主的な学習意欲の向上を促進するための工夫を教員集団で一層共有する。 授業における課題の精査を行い、努力と達成感のバランスを工夫する。 多分掌間での協力の下、情報教育と図書教育の充実に取り組む。 	A	A
	(2) 多様な生徒に対応する教材の開発や指導方法の工夫により、自ら学ぶ意欲を喚起し個性の伸長に努める。	B	B			
	(3) 高大連携教育や国際理解教育の推進を図り、美術工芸教育・普通科教育の深化に努める。	B	B			
	(4) 情報教育や図書教育の充実を図り、豊かな人間性の育成に努める。	B	B			
評価者の意見等 ・ より具体的なアクションプランを。 ・ これだけの内容に取り組み、評価を受けるには指導者の熱意のすごさを感じる。						
生徒指導	(1) 全教職員の共通理解と実践により、基本的な生活習慣の定着に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校において目指すべき基本的な生活習慣を再確認して、共通理解を深める。 寮と学校の情報交換と情報共有を進めて、同一の視点でそれぞれの立場から生徒の生活指導を高めてゆく。 教育相談を一層活性化させるべく、教員間の連携協力を強化させる。 	A	A
	(2) 地域の特色を生かした特別活動の充実を図り、生徒の自主性や自律性の育成に努める。	B	B			
	(3) 教育相談活動を充実し、多面的な生徒理解を深め、いじめ等も含めた問題の早期発見・対応を実践する。	B	B			
評価者の意見等 ・ 日頃の全教職員の努力に成果ありの評価として問題ない。						
進路指導	(1) 進路意識を高め、キャリア発達課題の達成を目指し、自己実現に向けて努力する態度を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア発達課題の共通理解を深めて、学校教育目標や工芸科の目標とすりあわせ、全体のものとして共有する。 進路指導部と各学年との連携を更に強化し、3年間を見据えた進路指導計画を再確認し推進する。 	A	A
	(2) 自己理解を深め、個性や能力・適性に応じて進路目標を設定する力を育成する。	B	B			
	(3) 個に応じた職場開拓や情報収集を図り、進路実現に達成させる。	B	B			
評価者の意見等 ・ 「進路実現に向けた進路指導は十分か」というアンケートに対する教職員回答の半数がネガティブである。 ・ 進路の関心が広がっている。教職員の熱意の表れだと思える。						
健康安全指導	(1) 保健教育活動を充実し、個々の生徒の状況を的確に把握し、生命を大切にし、主体的に心身を鍛える生徒を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 工芸という学科の特殊性から、怪我が発生するリスクが常にあることを認識し、生徒の基本的な生活習慣も含めて、日常の安全指導を一層強化する。 睡眠と栄養と休養をバランス良く取る事を生徒に指導し、体調管理のみならず、体力増進などの予防的意識を深める指導を一層進める。 	A	A
	(2) 校内外の清掃美化や施設の保全を図り、快適な教育環境づくりを推進する。	B	B			
	(3) 全教育活動をととして安全教育を徹底させ、適切な生活行動ができるよう指導する。	B	B			
評価者の意見等 ・ 特に重大なケガなどがないことに敬意を表したい。						

組織運営	(1) 日常的・組織的な連携が緊密化させる。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 組織編成においては、個々の力量が十分に発揮できるように、バランスを考慮する。 組織内の意識共有を深めるとともに組織間の連携を活性化し、それぞれの取組に対して、全体で取り組む体制を促進する。 計画の精密化を図り、取組においては組織的な連携を活性化させ、各取組後の検証を着実にやり、継承事項や改善点を明確にして、次年度の計画に繋げていく。(PDCA サイクルの確立) 危機管理体制を検討し、様々な事態に対応できる体制を構築していく。 	B	B
	(2) 前例踏襲に陥らずに各取組が前進させる。	C	B			
	(3) 危機管理意識が醸成する。	B	B			
評価者の意見等	・抽象的な事象なので評価しづらい。					
研修	(1) 研修活動が充実し、授業改善や実践力が向上させる。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 改めて、研修を重要な取組のひとつと位置づけて計画的に研修を進めていく。 日常的な研修姿勢を確認して、相互刺激を活発にすることで教師力の向上に努める。 職員室内での、相互啓発的な会話を育て、教育力の向上に繋げる。 	B	B
	(2) プロ教師として成長する。	C	B			
	(3) 澁刺、重厚な職員室に一層する。	C	C			
評価者の意見等	・研修活動に重きを置きすぎると、個性が埋没しないか。					
保護者、地域住民等との連携	(1) 保護者や地域に対して、本校の取り組みを十分に情報発信する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校の現状と改善の方向性について、こまめな情報発信を重ねて、正確な学校理解を醸成していく。 地域における異世代交流や小中高とおしたキャリア発達を旨として、学校全体で共有された地域交流の意識を持ち、学校改善を進めていく。 会員が広範囲に存在する本校のPTA活動に対して、本校が核となり、よりよい活動を支援していく。 	A	A
	(2) 保護者や地域からの意見を聴き、積極的に学校改善に役立てる。	B	B			
	(3) 保護者との連携を図りながら、充実したPTA活動が展開されたか。	B	A			
評価者の意見等	・生徒だけでなく、教職員の地域への溶け込みに課題はないか。					

4 自己評価における特記事項（総合的な改善方針）

- ・今、目の前にいる子どもたちの、学びと育ちと未来を第一として捉え、全員で今まで以上に意見を交えながら、協力体制を更に深めて、職員全体で学校を運営していく。
- ・卒業後の生徒の進路実現や自己実現に向けて、学習と技能修得と強い精神力の育成を両立させ、自ら生き抜く力を持つ人を育てる。
- ・検証と検討、改善を図る時間も織り込んだ、柔軟にして効率的、効果的な年間計画を立てる。
- ・生徒との対話を大切に生徒理解を深め、困難にも自発的に向かい合う心身ともにたくましい生徒を育成する。
- ・生徒との対話や対応における、より望ましい教師像をめざして、よりよい信頼関係を構築する。
- ・生徒の健康と安全の確保に向け、食物アレルギーに関する対応や対策も充実させる。また、実習における十分な指導と落ち着いた実施、体調維持のために基本的な生活習慣の確立を生徒に指導して、安全な実習指導体制を作る。
- ・教員相互で、指導に対する考え方や方法について話題として共有し、それぞれの取り組んだ研修内容を還元交流することにより切磋琢磨を重ね、教師力の更なる向上を図る。
- ・カリキュラムの検討や、シラバスの改善、課題の改良を今後も重ね、生徒にとって更に効果的な学びを創出する。
- ・教員相互の連携を一層深め、集団として生徒の育ちを支える。

5 学校関係者評価における特記事項

- ・高大連携の継続と新たな協定調印を評価する。
- ・入学志願者数が定員の1.5倍近いことを評価する。
- ・教職員のライフ・ワークバランスの改善への取り組みが必要。
- ・工芸科指導、進路指導、寮運営に課題を含む評価結果に対して、具体的な改善策が出てくることを期待する。(たとえば、デザインなどにもっと特化して指導方向を広げるなど。)
- ・生徒の満足度の高さに好感を持つ。寮生活の中で地域とのつながりのも充実感を得ているようで心強い。離れて暮らす保護者にとっても安心、納得できる教育と生活がなされているように感じる。

